

R6年度 事業名	鯖江市文化協議会事業補助金
R5年度 事業名	鯖江市文化協議会事業補助金

総合戦略 体系	241	『市民主役』で、さばえる！ひとが集い、挑戦できるまちをつくる	市民主役で絆を強め、特色を高めるまちづくり	市民主役の推進
------------	-----	--------------------------------	-----------------------	---------

P L A N 計 画	部署名	文化課	開始年度	0	終了年度	9999
	目的	文化振興に寄与する文化団体の育成を図る。地方文化の向上を図るため、芸術文化、伝統文化、芸能等の育成ならびに継承保存に努め、文化のふるさとづくりを推進する。				
	概要	鯖江市文化協議会に対する補助金の交付。文化のふるさとづくりに要する経費。 (市文協芸能祭、市文協総合展・合同茶会、観月の夕べ等)				
	法令等 根拠		実施 形態	内 容	若年層を含む団体数、会員数の増、および他団体等との連携による事業参加者数増のため、事業内容等に関する指導・助言を行う。	
	現在	補助金等交付				

活動指標								
指標名		単位	年度	2021	2022	2023	2024	2025
事業の実施回数		回	目標値	31	30	3	3	3
			実績値	30	30	4	4	
成果指標								
指標名		単位	年度	2021	2022	2023	2024	2025
事業の参加者数		人	目標値	310	300	3,000	4,000	5,000
			実績値	266	235	4,615	6,930	
計算 根拠	文化協議会からの聞き取り、報告		達成率	85.8	78.3	153.8	173.2	
			実数値					
			ランク	B	C	A		
前年度 ランク B、Cの 理由								

DO実施

事業費	区分	2020	2021	2022	2023	2024	タイプ	会計	一般会計
	予算額	0	1,935	1,935	1,935	1,935		事業タイプ	単独事業
	決算額	0	925	1,935	1,935	1,935		経費区分	補助費等

歳出予算	No	款	項	目	事業	R6年度事業名	予算書額	うち事業額(千円)
	1	10	5	7	602	文化団体活動費補助金	3,580	1,935
	2							
	3							
	4							
	5以降							
							合計	1,935

補助金等	No	R6年度補助金等名称		金額(千円)	
	1				
	2				
	3				
	4				
	5以降				
				合計	0

事業要員	正規職員	
	会計年度職員	
	※所要時間	16

CHECK評価

法令等により実施することが義務付けられているか。 (1はい・0いいえ)	☐ はい ☒ いいえ
行政が実施すべき事業か。 (1はい・0いいえ)	☒ はい ☐ いいえ
住民等のニーズは増えているか。 (2増加する見込み・1横ばい・0減少する見込み)	☐ 増加する見込み ☒ 横ばい ☐ 減少する見込み
国・県または民間のサービスと競合している事業があるか。 (1ない・0ある)	☐ ない ☒ ある
事務事業の中で、目的や概要が類似する事務事業があるか。 (1ない・0ある)	☒ ない ☐ ある
合計 点数	10
点数区分	0点～8点 9点～16点
次年度方向性の 目安	事務改善または 廃止・休止 維持または 事務改善
判定	維持または事務改善

効率性	改善を行い、コストの削減を図っているのか。(2節減できている・1横ばい・0増加している)	☐ 節減できている ☒ 横ばい ☐ 増加している
	デジタル技術を活用するなど業務効率は向上しているのか。 (2向上している・1横ばい・0低下している)	☒ 向上している ☐ 横ばい ☐ 低下している
	業務プロセス(進め方・手続き)の向上を図っているのか。 (2向上している・1横ばい・0低下している)	☒ 向上している ☐ 横ばい ☐ 低下している
	市民団体や事業者に業務委託しているか。 (1いる・0いない)	☐ いる ☒ いない
有効性	財源(補助金等、受益者負担など)を確保しているか。 (1いる・0いない)	☐ いる ☒ いない
	成果は目標を達成できているか。 (2目標を達成できている・1進展している・0目標に向かっていない)	☒ 目標を達成できている ☐ 進展している ☐ 目標に向かっていない

ACTION

今年度	R6方向性⇒	事務改善(手段・サービス水準の見直し)
取組内容	R6年度は、メイン事業として「芸能祭」、「文協総合展・合同茶会」を実施、また、「観月の夕べ」はR5年度同様市民のニーズに合った事業内容を組み替え実施する。従って、補助金を交付。	
来年度へ向けて	R5年度の実績 R5年度は補助金を交付し、基本の3事業に加え、若い年齢層が参加しやすい新しい事業「X' masさばえアートフェスタ2023／BUNKYO」を実施した。	
	R5年度実績とR6年度の経過を踏まえた課題 会員の高齢化、およびコロナ禍で長期間、文化芸術活動が抑制されていた影響により、令和5年度は活動する団体数、加入者ともに減少傾向にある。	
	実績と課題を踏まえたR7年度の変更点 HPなどで市民全般に団体の活動を周知する他、若い年齢層も興味を持ち加入しやすく、市民が参加しやすい事業の在り方や企画について協議、指導し、文化団体の育成を図る。	
	R7方向性⇒	維持
	CHECK(次年度方向性の目安)とR7年度方向性が異なる場合には、その理由	

【提案型市民主役事業実施】					
年度	2021	2022	2023	2024	2025
取組選択	不可能	不可能	不可能	不可能	不可能
実施状況	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施

取組可能な事業の詳細⇒

R6年度事業名	なし
市民主役事業にかかる額(単位千円): 0	
R7年度事業名	なし
市民主役事業にかかる額(単位千円): 0	

R6年度 事業名	やんしき保存協会活動費補助金
R5年度 事業名	やんしき保存協会活動費補助金

総合戦略 体系	241	『市民主役』で、さばえる！ひとが集い、挑戦できるまちをつくる	市民主役で絆を強め、特色を高めるまちづくり	市民主役の推進
------------	-----	--------------------------------	-----------------------	---------

P L A N 計 画	部署名	文化課	開始年度	0	終了年度	9999
	目的	やんしき踊りの保存および普及活動を行い、鯖江の伝統芸能を守り、地域の連帯を深める。				
	概要	やんしき保存協会の活動費の補助				
	法令等 根拠		実施 形態	内容	やんしき踊りの保存・継承事業に関する指導・助言	
	現在	補助金等交付				

D O 実 施	活動指標								
	指標名		単位	年度	2021	2022	2023	2024	2025
	※設定困難			目標値					
				実績値					
	成果指標								
	指標名		単位	年度	2021	2022	2023	2024	2025
	普及活動回数		回	目標値	30	25	25	30	33
				実績値	29	24	35	38	
	計算 根拠			達成率	96.7	96.0	140.0	126.0	
				実数値					
				ランク	A	A	A		
	前年度 ランク B、Cの 理由								

DO実施

事業費	区分	2020	2021	2022	2023	2024	タイプ	会計	一般会計
	予算額	0	270	300	270	270		事業タイプ	単独事業
	決算額	0	270	270	270	270		経費区分	補助費等

歳出予算	No	款	項	目	事業	R6年度事業名	予算書額	うち事業額(千円)
	1	10	5	7	602	文化団体活動費補助金	3,580	270
	2							
	3							
	4							
	5以降							
							合計	270

補助金等	No	R6年度補助金等名称			金額(千円)	
	1					
	2					
	3					
	4					
	5以降					
					合計	0

事業要員	正規職員	0.05
	会計年度職員	
	※所要時間	0

CHECK評価

法令等により実施することが義務付けられているか。 (1はい・0いいえ)	☐ はい ☒ いいえ
行政が実施すべき事業か。 (1はい・0いいえ)	☒ はい ☐ いいえ
住民等のニーズは増えているか。 (2増加する見込み・1横ばい・0減少する見込み)	☒ 増加する見込み ☐ 横ばい ☐ 減少する見込み
国・県または民間のサービスと競合している事業があるか。 (1ない・0ある)	☒ ない ☐ ある
事務事業の中で、目的や概要が類似する事務事業があるか。 (1ない・0ある)	☒ ない ☐ ある
合計 点数	11
点数区分	0点～8点 9点～16点
次年度方向性の 目安	事務改善または 廃止・休止 維持または 事務改善
判定	維持または事務改善

効率性	改善を行い、コストの削減を図っているのか。(2節減できている・1横ばい・0増加している)	☐ 節減できている ☒ 横ばい ☐ 増加している
	デジタル技術を活用するなど業務効率は向上しているのか。 (2向上している・1横ばい・0低下している)	☐ 向上している ☒ 横ばい ☐ 低下している
	業務プロセス(進め方・手続き)の向上を図っているのか。 (2向上している・1横ばい・0低下している)	☐ 向上している ☒ 横ばい ☐ 低下している
	市民団体や事業者に業務委託しているか。 (1いる・0いない)	☐ いる ☒ いない
有効性	財源(補助金等、受益者負担など)を確保しているか。 (1いる・0いない)	☐ いる ☒ いない
	成果は目標を達成できているか。 (2目標を達成できている・1進展している・0目標に向かっていない)	☒ 目標を達成できている ☐ 進展している ☐ 目標に向かっていない

ACTION

今年度	R6方向性⇒	事務改善(手段・サービス水準の見直し)
取組内容	コロナウィルスの影響により令和5年度も会の活動が制限される可能性が高いものの、令和4年度から自主活動を増やすなどして可能な限り継承活動に取り組むという姿勢を継続していることから補助金を交付する。	

来年度へ向けて	R5年度の実績	踊りの練習についてはマスク着用や屋外実施によるコロナ対策を実施したことにより活動環境が大幅に改善。対外的な参加活動(祭りやイベント等)についてもコロナ後の反動もあり大幅に改善された。目標を達成することが出来たことから補助金を交付。
	R5年度実績とR6年度の経過を踏まえた課題	会の練習活動は回復傾向にあり、対外的な参加活動も大幅に回復した。いっぽうで、会の予算はコロナ禍前と比べかなり少ない状況にあり、会員数も減少したままであることから、会の活動や運営ひいては民俗文化財の継承活動が滞る可能性がある。
	実績と課題を踏まえたR7年度の変更点	コロナ後の対外参加活動環境は大幅に改善されていることから、地域の行事やイベントでの踊りを通しての普及啓発を各方面に積極的に働きかけるよう指導するとともに、会員募集の取り組みを行うことで会の活性化を図るよう協議・指導し、前年度より予算(補助額)を増額して支援を継続する。
	R7方向性⇒	事務改善(手段・サービス水準の見直し)
	CHECK(次年度方向性の目安)とR7年度方向性が異なる場合には、その理由	

【提案型市民主役事業実施】					
年度	2021	2022	2023	2024	2025
取組選択	不可能	不可能	不可能	不可能	不可能
実施状況	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施

取組可能な事業の詳細⇒

R6年度事業名	なし
市民主役事業にかかる額(単位千円): 0	
R7年度事業名	なし
市民主役事業にかかる額(単位千円): 0	

R6年度 事業名	まなべDEわくわく!! アートフェスタ
R5年度 事業名	まなべDEわくわく!! アートフェスタ

総合戦略 体系	336	『幸福寿命』で、さばえる！育てやす い暮らしやすいまちをつくる	子どもがいきいきと過ごすまち	文化活動の推進
------------	-----	------------------------------------	----------------	---------

P L A N 計 画	部署名	文化課	開始年度	2010	終了年度	9999
	目的	子どもたちが芸術文化に触れ合うことのできる総合的芸術文化活動をととして、子どもたちに地域の伝統文化、歴史を伝え、郷土を愛する心や創造力豊かな人間性を育み、次世代育成に努めるとともに市の文化振興に努めることを目的とする。				
	概要	鯖江市がこれまで築いてきた芸術文化、伝統芸能・工芸・産業、生活文化、歴史などの地域の資源や特性を活かした分野を中心に、子どもたちが芸術文化を総合的に体験できる学びの場として開催する。また、登録博物館 まなべの館として文化芸術活動の拠点となるよう積極的な活用を行い、市民に親しまれ愛される施設を目指す。				
	法令等 根拠		実施 形態	内 容	市が参加者を募集し、講師は一部、各種市民団体等に依頼し開催している。	
	現在	市直営				

	活動指標									
	指標名			単位	年度	2021	2022	2023	2024	2025
	体験教室の回数			日	目標値	3	2	2	2	2
					実績値	3	2	2	2	
	成果指標									
	指標名			単位	年度	2021	2022	2023	2024	2025
	参加人数			人	目標値	360	360	360	360	360
					実績値	495	360	360	454	
	計算 根拠	事業への参加者数			達成率	137.5	100	100	126	
					実数値					
				ランク	A	A	A			
前年度 ランク B、Cの 理由										

DO実施

事業費	区分	2020	2021	2022	2023	2024	タイプ	会計	一般会計
	予算額	0	714	751	788	989		事業タイ	単独事業
	決算額	0	548	442	513	927		経費区分	物件費

歳出予算	No	款	項	目	事業	R6年度事業名	予算書額	うち事業額(千円)
	1	10	5	7	201	文化振興諸経費	22,132	989
	2							
	3							
	4							
	5以降							
							合計	989

補助金等	No	R6年度補助金等名称		金額(千円)	
	1	参加者負担金 (@500円×350人)		175	
	2	参加者負担金 (@800円×100人)		80	
	3				
	4				
	5以降				
				合計	255

事業要員	正規職員	0.2
	会計年度職員	0.01
	※所要時間	0

CHECK評価

法令等により実施することが義務付けられているか。 (1はい・0いいえ)	☐ はい ☒ いいえ
行政が実施すべき事業か。 (1はい・0いいえ)	☒ はい ☐ いいえ
住民等のニーズは増えているか。 (2増加する見込み・1横ばい・0減少する見込み)	☒ 増加する見込み ☐ 横ばい ☐ 減少する見込み
国・県または民間のサービスと競合している事業があるか。 (1ない・0ある)	☒ ない ☐ ある
事務事業の中で、目的や概要が類似する事務事業があるか。 (1ない・0ある)	☒ ない ☐ ある

合計 点数	点数区分	次年度方向性の 目安	判定
14	0点～8点	事務改善または 廃止・休止	維持または事務改善
	9点～16点	維持または 事務改善	

効率性	改善を行い、コストの削減を図っているのか。(2節減できている・1横ばい・0増加している)	☒ 節減できている ☐ 横ばい ☐ 増加している
	デジタル技術を活用するなど業務効率は向上しているのか。 (2向上している・1横ばい・0低下している)	☒ 向上している ☐ 横ばい ☐ 低下している
	業務プロセス(進め方・手続き)の向上を図っているのか。 (2向上している・1横ばい・0低下している)	☒ 向上している ☐ 横ばい ☐ 低下している
	市民団体や事業者に業務委託しているか。 (1いる・0いない)	☐ いる ☒ いない
有効性	財源(補助金等、受益者負担など)を確保しているか。 (1いる・0いない)	☒ いる ☐ いない
	成果は目標を達成できているか。 (2目標を達成できている・1進展している・0目標に向かっていない)	☒ 目標を達成できている ☐ 進展している ☐ 目標に向かっていない

ACTION

今年度	R6方向性⇒	維持
取組内容	R6年度はまちなか芸術祭に組み込み、まちなか芸術祭のオープニングとして、通常のカリキュラムと合わせて県内外で活躍する芸術家を講師を迎えて開催する。	

来年度へ向けて	R5年度の実績	R5年度はコロナ禍以前の体制には戻せなかったが、2日間実施し360人の参加者があった。
	R5年度実績とR6年度の経過を踏まえた課題	新型コロナウイルス対策で少人数制にし、オープニングを中止にして実施していたが、R5年度はオープニングを再開し実施した。また、コロナ禍があげ、全体的に事業が活発になってきたため、今後も引き続き事業内容を工夫し、参加者獲得に努力する。
	実績と課題を踏まえたR7年度の変更点	毎年、参加者の満足度をアップできるよう、カリキュラムの内容構成等をバージョンアップして実施しているが、コロナ禍の影響で、参加者の興味やニーズも変化してきていると思われる。そのため、そのニーズに沿った内容を提供できるよう、アンケートなどを取ってより一層内容構成等を充実させて実施する。また、文化課まなべの館でしかできない独自の体験メニューを構築する。
	R7方向性⇒	事務改善(手段・サービス水準の見直し)
	CHECK(次年度方向性の目安)とR7年度方向性が異なる場合には、その理由	

【提案型市民主役事業実施】					
年度	2021	2022	2023	2024	2025
取組選択	不可能	不可能	不可能	不可能	不可能
実施状況	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施

R6年度事業名	なし
市民主役事業にかかる額(単位千円):	0
R7年度事業名	
市民主役事業にかかる額(単位千円):	0

取組可能な事業の詳細⇒

R6年度 事業名	鯖江市美術展開催事業
R5年度 事業名	鯖江市美術展開催事業

総合戦略 体系	263	『市民主役』で、さばえる！ひとが集い、挑戦できるまちをつくる	シビックプライドの醸成	ふるさとの歴史・芸術文化の再発見（再掲）
------------	-----	--------------------------------	-------------	----------------------

P L A N 計 画	部署名	文化課	開始年度	2008	終了年度	9999
	目的	本市の美術文化の向上を図り、市民に親しまれる美術の祭典となることを目的とする。				
	概要	本市の美術文化の向上を図り、市民に親しまれる美術の祭典となることを目的に、日本画・水墨画、絵画・造形、彫刻・立体、書道、工芸・クラフト、写真、デザイン・イラストの7部門で作品を募集し、まなべの館と鸛陽会館の2会場で入賞・入選作品を展示する。5日間の会期中、作品について意見交換を行うギャラリートークや、子どもから大人まで気軽に美術に親しんでもらうための「気がするにあと展」、クリヨウジ作品アーカイブプロジェクトによる作品公開「クリヨウジアニメーション実験をはじめる」も同時開催する。その他、市美展への出品数を増やすためのワークショップを実施し、芸術文化に携わる人材育成を図る。				
	法令等 根拠		実施 形態	内容	市と市民が主体となった実行委員会が協働して実施する。	
	現在	市直営				

	活動指標									
	指標名		単位	年度	2021	2022	2023	2024	2025	
	作品の応募点数		点	目標値	225	225	225	225	225	
				実績値	373	365	354	372		
	成果指標									
	指標名		単位	年度	2021	2022	2023	2024	2025	
	会場への来場者数		人	目標値	4,000	4,000	4,000	4,500	4,500	
				実績値	5,460	5,702	5,384	5,656		
	計算 根拠	市民の文化意識の向上を会場への来場者数で判断する。※H24から開催期間が10日間から5日間に変更。※H27から開催日を11月に、会場を2会場に変更。			達成率	136.5	142.6	134.6	125.6	
					実数値					
				ランク	A	A	A			
前年度 ランク B、Cの 理由										

DO実施

事業費	区分	2020	2021	2022	2023	2024	タイプ	会計	一般会計
	予算額	2,905	2,891	2,900	2,935	3,071		事業タイプ	単独事業
	決算額	2,541	2,607	2,778	2,784	2,878		経費区分	物件費

歳出予算	No	款	項	目	事業	R6年度事業名	予算書額	うち事業額(千円)
	1	10	5	7	201	文化振興諸経費	22,132	3,071
	2							
	3							
	4							
	5以降							
							合計	3,071

補助金等	No	R6年度補助金等名称		金額(千円)	
	1	出品料(@1,300円×250人)		325	
	2	ワークショップ(日本画・洋画等)		200	
	3				
	4				
	5以降				
				合計	525

事業要員	正規職員	0.5
	会計年度職員	0.1
	※所要時間	0

CHECK評価

法令等により実施することが義務付けられているか。 (1はい・0いいえ)	☐ はい ☒ いいえ		
行政が実施すべき事業か。 (1はい・0いいえ)	☒ はい ☐ いいえ		
住民等のニーズは増えているか。 (2増加する見込み・1横ばい・0減少する見込み)	☐ 増加する見込み ☒ 横ばい ☐ 減少する見込み		
国・県または民間のサービスと競合している事業があるか。 (1ない・0ある)	☐ ない ☒ ある		
事務事業の中で、目的や概要が類似する事務事業があるか。 (1ない・0ある)	☒ ない ☐ ある		
合計 点数	点数区分	次年度方向性の 目安	判定
11	0点～8点	事務改善または 廃止・休止	維持または事務改善
	9点～16点	維持または 事務改善	

効率性	改善を行い、コストの削減を図っているのか。(2節減できている・1横ばい・0増加している)	☐ 節減できている ☒ 横ばい ☐ 増加している
有効性	デジタル技術を活用するなど業務効率は向上しているのか。 (2向上している・1横ばい・0低下している)	☒ 向上している ☐ 横ばい ☐ 低下している
	業務プロセス(進め方・手続き)の向上を図っているのか。 (2向上している・1横ばい・0低下している)	☒ 向上している ☐ 横ばい ☐ 低下している
	市民団体や事業者に業務委託しているか。 (1いる・0いない)	☐ いる ☒ いない
有効性	財源(補助金等、受益者負担など)を確保しているか。 (1いる・0いない)	☒ いる ☐ いない
	成果は目標を達成できているか。 (2目標を達成できている・1進展している・0目標に向かっていない)	☒ 目標を達成できている ☐ 進展している ☐ 目標に向かっていない

ACTION

今年度	R6方向性⇒	維持
取組内容	R6年度は、コロナ禍以前の形態に戻し実施する。	

来年度へ向けて	R5年度の実績	R5年度はほぼコロナ禍前に戻し実施し、総出品数354点、5,384人の来場者数があった。
	R5年度実績とR6年度の経過を踏まえた課題	コロナ禍の影響で講座や教室などの創作活動の場が少なくなったため、出品数が伸び悩んだ。R4年度に引き続き、どのような場合においても、市民が安心して自己の創作活動、発表ができる場を失わないようにすることが大切である。また、美術展への参加を増やすため、作品制作を学ぶ場の創設、市民が気軽に学べる場を提供していく必要がある。
	実績と課題を踏まえたR7年度の変更点	コロナ禍の影響と高齢化で減少した市民の芸術文化活動を支援するため、技術向上やきっかけづくりの場を設け、人材育成を図る。
	R7方向性⇒	維持
	CHECK(次年度方向性の目安)とR7年度方向性が異なる場合には、その理由	

【提案型市民主役事業実施】					
年度	2021	2022	2023	2024	2025
取組選択	不可能	不可能	不可能	不可能	不可能
実施状況	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施

R6年度事業名	なし
市民主役事業にかかる額(単位千円): 0	
R7年度事業名	
市民主役事業にかかる額(単位千円): 0	

取組可能な事業の詳細⇒

R6年度 事業名	近松が生まれ育ったまちさばえ発信事業
R5年度 事業名	近松が生まれ育ったまちさばえ発信事業

総合戦略 体系	263	『市民主役』で、さばえる！ひとが集い、挑戦できるまちをつくる	シビックプライドの醸成	ふるさとの歴史・芸術文化の再発見（再掲）
------------	-----	--------------------------------	-------------	----------------------

PLAN 計画	部署名	文化課	開始年度	2012	終了年度	9999
	目的	昭和の後半より郷土の偉人近松門左衛門を顕彰する様々な事業をまちづくり交付金事業などを利用して「近松が育ったまちさばえ」を情報発信してきた。平成28年度に近松鯖江生誕説が発表されたことにともない、さらに多くの人にブランド力の高い近松門左衛門を知ってもらうため「近松が生まれ育ったまちさばえ」を全国に情報発信する。				
	概要	「近松が生まれ育ったまちさばえ発信事業」郷土の偉人 近松門左衛門について学ぶ「近松講座」や小学生子どもを対象とした「近松の里めぐり」など多彩な近松顕彰事業を展開することにより、「近松が生まれ育ったまちさばえ」を情報発信する。 また、市民目線で広く「近松が生まれ育ったまちさばえ」を情報発信するため、地元の団体鯖江人形浄瑠璃「近松座」の公演や出前授業などの活動を通して人形浄瑠璃に関わる保存継承を推進する。				
	法令等 根拠		実施 形態	内容	PR活動は、一部を鯖江人形浄瑠璃「近松座」に委託して字実施する。	
	現在	民間等委託（一部）				

活動指標									
指標名			単位	年度	2021	2022	2023	2024	2025
近松座による出前公演等の回数			回	目標値	7	5	7	7	5
				実績値	6	10	10	9	
成果指標									
指標名			単位	年度	2021	2022	2023	2024	2025
				目標値					
				実績値					
計算 根拠				達成率					
				実数値					
近松が生まれ育ったまちさばえ発信事業の参加者数			人	目標値	550	300	300	200	200
				実績値	811	404	327	244	
計算 根拠	「近松が生まれ育ったまちさばえ」が浸透しているかどうかをイベントの参加者数で判断する。R1年度：近松入門講座の参加者数を追加 ※発信事業の内訳は文楽公演委託事業、近松が生まれ育ったまちさばえ発信事業（近松			達成率	147.5	134.7	109	122	
				実数値					
				ランク	A	A	A		
前年度 ランク B、Cの 理由									

DO実施

事業費	区分	2020	2021	2022	2023	2024	タイプ	会計	一般会計
	予算額	0	2,348	2,020	2,168	1,265		事業タイ	単独事業
	決算額	0	2,005	2,020	2,050	1,265		経費区分	物件費

歳出予算	No	款	項	目	事業	R6年度事業名	予算書額	うち事業額(千円)
	1	10	5	7	201	文化振興諸経費	22,132	1,218
	2							
	3							
	4							
	5以降							
							合計	1,218

補助金等	No	R6年度補助金等名称			金額(千円)
	1	近松関連グッズ			120
	2				
	3				
	4				
	5以降				
				合計	120

事業要員	正規職員	0.1
	会計年度職員	0.1
	※所要時間	0

CHECK評価

法令等により実施することが義務付けられているか。 (1はい・0いいえ)	☐ はい ☒ いいえ
行政が実施すべき事業か。 (1はい・0いいえ)	☒ はい ☐ いいえ
住民等のニーズは増えているか。 (2増加する見込み・1横ばい・0減少する見込み)	☐ 増加する見込み ☒ 横ばい ☐ 減少する見込み
国・県または民間のサービスと競合している事業があるか。 (1ない・0ある)	☒ ない ☐ ある
事務事業の中で、目的や概要が類似する事務事業があるか。 (1ない・0ある)	☒ ない ☐ ある
合計 点数	13
点数区分	0点～8点 9点～16点
次年度方向性の 目安	事務改善または 廃止・休止 維持または 事務改善
判定	維持または事務改善

効率性	改善を行い、コストの削減を図っているのか。(2節減できている・1横ばい・0増加している) ☐ 節減できている ☒ 横ばい ☐ 増加している
	デジタル技術を活用するなど業務効率は向上しているのか。 (2向上している・1横ばい・0低下している) ☒ 向上している ☐ 横ばい ☐ 低下している
	業務プロセス(進め方・手続き)の向上を図っているのか。 (2向上している・1横ばい・0低下している) ☒ 向上している ☐ 横ばい ☐ 低下している
	市民団体や事業者に業務委託しているか。 (1いる・0いない) ☒ いる ☐ いない
有効性	財源(補助金等、受益者負担など)を確保しているか。 (1いる・0いない) ☒ いる ☐ いない
	成果は目標を達成できているか。 (2目標を達成できている・1進展している・0目標に向かっていない) ☒ 目標を達成できている ☐ 進展している ☐ 目標に向かっていない

ACTION

今年度	R6方向性⇒	維持
取組内容	R6年度は、近松没後300年の記念の年であり「近松が生まれ育ったまちさばえ発信事業」として文楽公演等によるPR業務委託のほか、アニバーサリーの要素を含んだ「近松講座」や小学生を対象とした「近松の里めぐり」やウォークラリーなど事業を継続して実施し、近松が生まれ育ったまちさばえを全国発信する。また、紙芝居第二弾を2ヶ年計画で制作する。	
来年度へ向けて	R5年度実績 R5年度は近松生誕370年を記念して、近松について広く知ってもらうための本物を観る観劇ツアーを含む近松生誕370年anniversaryもっと近松を知ろう！5回シリーズなどを実施し、延べ327人の参加があった。 R5年度実績とR6年度の経過を踏まえた課題 R5年度は近松生誕370年記念事業を行い、近松関連の団体の連携を強化した。しかし、いまだ近松の関する情報の周知がいきわたっていないため、その要因や企画内容を検証するとともに県内外への情報発信を積極的に行う必要がある。 また、引き続き近松座などの関係団体と連携した事業を行い、近松が生まれ育ったまちさばえの周知強化を図る。 実績と課題を踏まえたR7年度の変更点 R7年度は、R5・6年度の近松門生誕370年記念事業、没後300年記念事業に引き続き、近松座などの関係団体と連携した事業を行い近松が生まれ育ったまちさばえの周知強化を図る。 R7方向性⇒ 維持 CHECK(次年度方向性の目安)とR7年度方向性が異なる場合には、その理由	

【提案型市民主役事業実施】					
年度	2021	2022	2023	2024	2025
取組選択	可能	不可能	可能	不可能	不可能
実施状況	実施	未実施	未実施	未実施	未実施

取組可能な事業の詳細⇒

R6年度事業名	なし
市民主役事業にかかる額(単位千円): 0	
R7年度事業名	なし
市民主役事業にかかる額(単位千円): 0	

R6年度 事業名	文化財調査事業
R5年度 事業名	文化財調査事業

総合戦略 体系	256	『市民主役』で、さばえる！ひとが集い、挑戦できるまちをつくる	地域資源を活かす観光の推進	ふるさとの歴史・芸術文化の再発見
------------	-----	--------------------------------	---------------	------------------

PLAN 計画	部署名	文化課	開始年度	2011	終了年度	9999
	目的	貴重な文化財を保存保護し未来へ継承するために、指定・登録文化財候補となるべき物件の悉皆調査等を実施するほか、まなべの館で未整理となっている古文書等の調査を実施する。				
	概要	鯖江市文化財調査委員会での諮問をはじめとして、多方面からの要望等に基づき、事務局において調査が必要と判断された文化財について調査を実施する（埋蔵文化財対応を除く）。事業の一部については、高度な専門的知識と技術をもつ研究機関（明治大学・京都女子大学等）に委託する。（明治大学への委託費についてのみ文化財管理事務諸経費。それ以外は文化財調査事業費）				
	法令等 根拠		実施 形態	内容	市職員（学芸員）および専門機関（大学等）に一部を委託して直接市内各地の文化財を訪問し、調査を行う。	
	現在	民間等委託（一部）				

D

活動指標								
指標名		単位	年度	2021	2022	2023	2024	2025
古文書の搬入点数		点	目標値	300	300	300	300	300
			実績値	500	500	685	583	
悉皆調査等の回数		回	目標値	3	3	4	4	4
			実績値	5	5	7	8	
成果指標								
指標名		単位	年度	2021	2022	2023	2024	2025
古文書の調査作成点数		点	目標値	300	300	300	300	300
			実績値	500	500	685	583	
計算 根拠			達成率	166.7	166.7	228.3	194.3	
			実数値					
調査した文化財の数		件(点)	目標値	3	3	4	4	4
			実績値	5	5	7	16	
計算 根拠			達成率	166.7	166.7	175.0	400.0	
			実数値					
			ランク	A	A	A		
前年度 ランク B、Cの 理由								

DO実施

事業費	区分	2020	2021	2022	2023	2024	タイプ	会計	一般会計
	予算額	174	1,121	973	1,893	1,129		事業タイ	単独事業
	決算額	20	469	682	1,734	1,129		経費区分	物件費

歳出予算	No	款	項	目	事業	R6年度事業名	予算書額	うち事業額(千円)
	1	10	5	7	202	文化財管理事務諸経費	7,368	495
	2	10	5	7	203	文化財調査事業費	1,893	504
	3							
	4							
	5以降							
							合計	999

補助金等	No	R6年度補助金等名称			金額(千円)	
	1					
	2					
	3					
	4					
	5以降					
					合計	0

事業要員	正規職員	0.34
	会計年度職員	0.87
	※所要時間	0

CHECK評価

法令等により実施することが義務付けられているか。 (1はい・0いいえ)	☐ はい ☒ いいえ
行政が実施すべき事業か。 (1はい・0いいえ)	☒ はい ☐ いいえ
住民等のニーズは増えているか。 (2増加する見込み・1横ばい・0減少する見込み)	☐ 増加する見込み ☒ 横ばい ☐ 減少する見込み
国・県または民間のサービスと競合している事業があるか。 (1ない・0ある)	☒ ない ☐ ある
事務事業の中で、目的や概要が類似する事務事業があるか。 (1ない・0ある)	☒ ない ☐ ある
合計 点数	10
点数区分	0点～8点 9点～16点
次年度方向性の 目安	事務改善または 廃止・休止 維持または 事務改善
判定	維持または事務改善

効率性	改善を行い、コストの削減を図っているのか。(2節減できている・1横ばい・0増加している)	☐ 節減できている ☒ 横ばい ☐ 増加している
	デジタル技術を活用するなど業務効率は向上しているのか。 (2向上している・1横ばい・0低下している)	☐ 向上している ☒ 横ばい ☐ 低下している
	業務プロセス(進め方・手続き)の向上を図っているのか。 (2向上している・1横ばい・0低下している)	☐ 向上している ☒ 横ばい ☐ 低下している
	市民団体や事業者に業務委託しているか。 (1いる・0いない)	☒ いる ☐ いない
有効性	財源(補助金等、受益者負担など)を確保しているか。 (1いる・0いない)	☐ いる ☒ いない
	成果は目標を達成できているか。 (2目標を達成できている・1進展している・0目標に向かっていない)	☒ 目標を達成できている ☐ 進展している ☐ 目標に向かっていない

ACTION

今年度	R6方向性⇒	事務改善(手段・サービス水準の見直し)
取組内容	コロナウィルスの影響が落ち着くことを前提として実施予定。大学等への調査事業委託については、大学側および市側の対応状況を勘案して可否を判断。なお、事務局対応可能な調査事業については個別に実施予定。登録文化財候補物件の調査事業委託については、要望がないことから実施しない。	

来年度へ向けて	R5年度の実績	明治大学および京都女子大学への古文書調査委託を実施し目録等を作成したほか、国登録文化財候補となる物件の調査も実施。このほか、文化財調査委員や事務局による調査(現況調査含む)を実施。(文化財調査委員会において、市内に眠る未調査の文化財候補物件調査の必要性は指摘されており、それを反映して実施。このうち特に保存保護の必要なものについては指定等への道筋をつける)。
	R5年度実績とR6年度の経過を踏まえた課題	コロナ禍の社会情勢も落ち着きつつあり調査環境は改善されたが、依然として文化財所有者から調査延期の要請もあるなどコロナ禍の影響は残る。また、新たに国登録文化財の申請を目指したいという希望も寄せられている。
	実績と課題を踏まえたR7年度の変更点	文化財指定や収蔵資料整理目的のための調査に加え、市民から調査要望が寄せられれば適宜対応する予定。国登録文化財の申請希望があれば文化財所有者と協議を行い、必要に応じて調査に向けた予算化を検討する。(R7は実施せず)
	R7方向性⇒	事務改善(手段・サービス水準の見直し)
	CHECK(次年度方向性の目安)とR7年度方向性が異なる場合には、その理由	

【提案型市民主役事業実施】					
年度	2021	2022	2023	2024	2025
取組選択	不可能	不可能	不可能	不可能	不可能
実施状況	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施

取組可能な事業の詳細⇒

R6年度事業名	なし
市民主役事業にかかる額(単位千円): 0	
R7年度事業名	なし
市民主役事業にかかる額(単位千円): 0	

R6年度 事業名	芸術文化活用プログラム まちなかミュージアム事業
R5年度 事業名	まなべの館企画展開催事業

総合戦略 体系	256	『市民主役』で、さばえる！ひとが集い、挑戦できるまちをつくる	地域資源を活かす観光の推進	ふるさとの歴史・芸術文化の再発見
------------	-----	--------------------------------	---------------	------------------

P L A N 計 画	部署名	文化課	開始年度	2014	終了年度	9999
	目的	博物館活動の中核を担う企画展開催事業を通して、教育・学術向上への寄与を図るだけでなく、本市の芸術文化・歴史等の更なる向上を図ることを目的とする。また、登録博物館としてのまなべの館の活用を積極的に図り、安定した事業運営を確保する。 R6年より、観光面を強化するため、地域の文化資源を活用し市の魅力を発信する事業を継続的に展開してまちなかに賑わい創出を図る3ヶ年計画のプログラムとして実施する。				
	概要	多くの来館者を誘致できるよう市の文化資源を最大限に活用し、市の魅力を情報発信する企画展開催事業を展開する。				
	法令等 根拠		実施 形態	内容	市職員(学芸員)が企画テーマに基づき、調査研究を行い、資料の借用、交渉から広報、展示など企画事業をプロデュースする。	
	現在	市直営				

D O 実 施	活動指標									
	指標名		単位	年度	2021	2022	2023	2024	2025	
	事業の開催		回	目標値	2	2	2	1	1	
				実績値	2	2	2	1		
	成果指標									
	指標名		単位	年度	2021	2022	2023	2024	2025	
	入館者数		人	目標値	2,500	2,500	2,500	2,000	2,000	
				実績値	4,752	5,343	4,750	2485		
	計算 根拠			達成率	190.1	213.7	190	124		
				実数値						
				ランク	A	A	A			
前年度 ランク B、Cの 理由										

DO実施

事業費	区分	2020	2021	2022	2023	2024	タイプ	会計	一般会計
	予算額	5,000	4,500	5,000	5,200	6,919		事業タイ	単独事業
	決算額	0	3,400	4,995	5,139	6,919		経費区分	物件費

歳出予算	No	款	項	目	事業	R6年度事業名	予算書額	うち事業額(千円)
	1	10	5	8	203	文化事業運営費	7,490	6,500
	2							
	3							
	4							
	5以降							
							合計	6,500

補助金等	No	R6年度補助金等名称		金額(千円)	
	1	観覧料(500円×2000人)		1,000	
	2	デジタル田園都市国家構想交付金		3,250	
	3				
	4				
	5以降				
				合計	4,250

事業要員	正規職員	0.2
	会計年度職員	0.1
	※所要時間	0

CHECK評価

法令等により実施することが義務付けられているか。 (1はい・0いいえ)	☐ はい ☒ いいえ
行政が実施すべき事業か。 (1はい・0いいえ)	☒ はい ☐ いいえ
住民等のニーズは増えているか。 (2増加する見込み・1横ばい・0減少する見込み)	☒ 増加する見込み ☐ 横ばい ☐ 減少する見込み
国・県または民間のサービスと競合している事業があるか。 (1ない・0ある)	☐ ない ☒ ある
事務事業の中で、目的や概要が類似する事務事業があるか。 (1ない・0ある)	☒ ない ☐ ある
合計 点数	13
点数区分	0点～8点 9点～16点
次年度方向性の 目安	事務改善または 廃止・休止 維持または 事務改善
判定	維持または事務改善

効率性	改善を行い、コストの削減を図っているのか。(2節減できている・1横ばい・0増加している)	☐ 節減できている ☒ 横ばい ☐ 増加している
	デジタル技術を活用するなど業務効率は向上しているのか。 (2向上している・1横ばい・0低下している)	☒ 向上している ☐ 横ばい ☐ 低下している
	業務プロセス(進め方・手続き)の向上を図っているのか。 (2向上している・1横ばい・0低下している)	☒ 向上している ☐ 横ばい ☐ 低下している
	市民団体や事業者に業務委託しているか。 (1いる・0いない)	☒ いる ☐ いない
有効性	財源(補助金等、受益者負担など)を確保しているか。 (1いる・0いない)	☒ いる ☐ いない
	成果は目標を達成できているか。 (2目標を達成できている・1進展している・0目標に向かっていない)	☒ 目標を達成できている ☐ 進展している ☐ 目標に向かっていない

ACTION

今年度	R6方向性⇒	維持
取組内容	R6年度は近松門左衛門没後300年を記念して、企画展「森村泰昌×桐竹勘十郎×現代美術と文楽の出会い」を開催。文楽の人間国宝 桐竹勘十郎氏、現代美術家 森村泰昌氏の日本を代表する2人のアーティストの作品80点余りを紹介する他、近松へのオマージュとして新たに文楽作品を制作、公開し、優れた作品を観賞できる場を創出する。 ※共催展として、昭和20年代に子どもに自由に表現させることを目指す創造美育運動を主導した鯖江出身の美術教師 木水育男氏が指導した児童画を展示し、子どもが本来備え持った創造力を伸ばし育てる機会を創出する事業を展開する。	
来年度へ向けて	R5年度の実績 R5年度は国史跡兜山古墳整備完了を記念した「兜山古墳の時代」展、女流漫画家として少女漫画を確立させた漫画家里中満智子の近松題材作品を紹介した「里中満智子作品展」の2本の企画展を開催し、あわせて4,750人の入場者があった。 R5年度実績とR6年度の経過を踏まえた課題 R5年度同様、まなべの館の認知度の低さが課題。より多くの来館者を得られるよう、まなべの館を知ってもらうための広報体制の見直しを図る。 実績と課題を踏まえたR7年度の変更点 情報発信が長年の懸案事項。より多くの人に来館してもらうために展示内容のWEB配信などオンラインコンテンツを充実させ、鑑賞者増を図る。また、観覧料についても増額し、財源確保を図る。 R7方向性⇒ 維持 CHECK(次年度方向性の目安)とR7年度方向性が異なる場合には、その理由	

【提案型市民主役事業実施】					
年度	2021	2022	2023	2024	2025
取組選択	不可能	不可能	不可能	不可能	不可能
実施状況	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施

取組可能な事業の詳細⇒

R6年度事業名	なし
市民主役事業にかかる額(単位千円): 0	
R7年度事業名	
市民主役事業にかかる額(単位千円): 0	

R6年度 事業名	重要文化財旧瓜生家住宅保存修理事業
R5年度 事業名	重要文化財旧瓜生家住宅保存修理事業

総合戦略 体系	256	『市民主役』で、さばえる！ひとが集い、挑戦できるまちをつくる	地域資源を活かす観光の推進	ふるさとの歴史・芸術文化の再発見
------------	-----	--------------------------------	---------------	------------------

P L A N 計 画	部署名	文化課	開始年度	2020	終了年度	2027
	目的	県内最古級の民家である重要文化財「旧瓜生家住宅」について保存修理事業を実施し、保存を図るとともに貴重な文化財を健全な状態で未来へ継承する。				
	概要	旧瓜生家住宅について、適切な状態で保存するための保存修理等を行う。地盤調査、耐震診断等を実施し、実施設計に反映。修理工事、茅葺屋根の葺替工事、監理業務委託ほかを実施するほか必要に応じて耐震対策工事も実施。				
	法令等 根拠		実施 形態	内 容	国庫・県費補助事業として、市が修理事業を推進する。	
	現在	市直営				

活動指標									
指標名			単位	年度	2021	2022	2023	2024	2025
※設定困難				目標値					
				実績値					
成果指標									
指標名			単位	年度	2021	2022	2023	2024	2025
事業進捗率			%	目標値	-	10	15	20	30
				実績値	-	10	15	20	
計算 根拠				達成率	-	100	100	100	
				実数値					
				ランク	-	A	A		
前年度 ランク B、Cの 理由									

DO実施

事業費	区分	2020	2021	2022	2023	2024	タイプ	会計	一般会計
	予算額	2,300	0	0	10,614	25,600		事業タイ	補助(国)事業
	決算額	1,287	0	0	10,594	19,249		経費区分	普通建設事業費

歳出予算	No	款	項	目	事業	R6年度事業名	予算書額	うち事業額(千円)
	1	10	5	7	501	文化財保存整備事業費(補助)	35,557	25,600
	2							
	3							
	4							
	5以降							
							合計	25,600

補助金等	No	R6年度補助金等名称		金額(千円)	
	1	国宝重要文化財等保存・活用事業費補助金		12,800	
	2	国指定文化財保存修理等補助金		4,266	
	3				
	4				
	5以降				
				合計	17,066

事業要員	正規職員	0.1
	会計年度職員	0.1
	※所要時間	0

CHECK評価

法令等により実施することが義務付けられているか。 (1はい・0いいえ)	☒ はい ☐ いいえ
行政が実施すべき事業か。 (1はい・0いいえ)	☒ はい ☐ いいえ
住民等のニーズは増えているか。 (2増加する見込み・1横ばい・0減少する見込み)	☐ 増加する見込み ☒ 横ばい ☐ 減少する見込み
国・県または民間のサービスと競合している事業があるか。 (1ない・0ある)	☒ ない ☐ ある
事務事業の中で、目的や概要が類似する事務事業があるか。 (1ない・0ある)	☒ ない ☐ ある
合計 点数	12
点数区分	0点～8点 9点～16点
次年度方向性の 目安	事務改善または 廃止・休止 維持または 事務改善
判定	維持または事務改善

効率性	改善を行い、コストの削減を図っているのか。(2節減できている・1横ばい・0増加している)	☐ 節減できている ☒ 横ばい ☐ 増加している
	デジタル技術を活用するなど業務効率は向上しているのか。 (2向上している・1横ばい・0低下している)	☐ 向上している ☒ 横ばい ☐ 低下している
	業務プロセス(進め方・手続き)の向上を図っているのか。 (2向上している・1横ばい・0低下している)	☐ 向上している ☒ 横ばい ☐ 低下している
	市民団体や事業者に業務委託しているか。 (1いる・0いない)	☒ いる ☐ いない
有効性	財源(補助金等、受益者負担など)を確保しているか。 (1いる・0いない)	☒ いる ☐ いない
	成果は目標を達成できているか。 (2目標を達成できている・1進展している・0目標に向かっていない)	☒ 目標を達成できている ☐ 進展している ☐ 目標に向かっていない

ACTION

今年度	R6方向性⇒	維持
取組内容	R5年度において(国の第4次交付)事業採択され、R6も各種診断・調査業務をとおして実施設計策定作業を継続する。なお、診断・調査結果次第によっては、耐震実施設計を策定する予定。	

来年度へ向けて	R5年度の実績	R5.11月に国の補助事業採択を受け本格的に事業着手。実施設計策定にかかる各種調査等(地盤調査・構造調査等)を実施。この作業をとおして、実施設計策定に向けた様々な資料を得ることが出来た。
	R5年度実績とR6年度の経過を踏まえた課題	R5.11月に国の事業採択を受け本格的に事業着手。R5は実施設計にかかる各種調査を実施。R6も引き続き調査や診断を行い、屋根葺替えを含む修理方針を決定した後実施設計をまとめる予定。このため、現時点で全体事業費および事業期間は不明であり、調査や診断結果次第では耐震補強設計および同工事が必要となり、これに伴い事業工程の延期、事業費が増額となる可能性もある。
	実績と課題を踏まえたR7年度の変更点	R6に地盤調査や耐震診断ほか実施設計業務をとおして工事方針を国・県と協議して決定。R7から修理工事に着手する予定。
	R7方向性⇒	維持
	CHECK(次年度方向性の目安)とR7年度方向性が異なる場合には、その理由	

【提案型市民主役事業実施】					
年度	2021	2022	2023	2024	2025
取組選択	不可能	不可能	不可能	不可能	不可能
実施状況	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施

取組可能な事業の詳細⇒

R6年度事業名	なし
市民主役事業にかかる額(単位千円): 0	
R7年度事業名	なし
市民主役事業にかかる額(単位千円): 0	

R6年度 事業名	まなべ*学びプロジェクト
R5年度 事業名	まなべ*学びプロジェクト

総合戦略 体系	336	『幸福寿命』で、さばえる！育てやす い暮らしやすいまちをつくる	子どもがいきいきと過ごすまち	文化活動の推進
------------	-----	------------------------------------	----------------	---------

P L A N 計 画	部署名	文化課	開始年度	2022	終了年度	9999
	目的	地域の芸術文化や歴史との「出会い」と「学び」を通して、芸術文化と歴史に身近に感じてもらうとともに親子の絆と学びを深める。				
	概要	芸術文化・歴史を身近に感じ、学びと親子の絆を深めるため、学びのテーマを設け、外部講師を迎えてフィールドワークやワークショップなどの親と子で学びしめる体験型学習事業を実施する。				
	法令等 根拠		実施 形態	内 容		
	現在	民間等委託(一部)				

	活動指標									
	指標名			単位	年度	2021	2022	2023	2024	2025
	回数			回	目標値		3	3	5	
					実績値		3	3	5	
	成果指標									
	指標名			単位	年度	2021	2022	2023	2024	2025
	人数			人	目標値		90	70	100	
					実績値		70	93	126	
	計算 根拠	講座の参加者数			達成率		77.8	132.8	126	
					実数値					
				ランク		C	A			
前年度 ランク B、Cの 理由										

DO実施

事業費	区分	2020	2021	2022	2023	2024	タイプ	会計	一般会計
	予算額			430	314	312		事業タイプ	単独事業
	決算額			271	149	241		経費区分	物件費

歳出予算	No	款	項	目	事業	R6年度事業名	予算書額	うち事業額(千円)
	1	10	5	7	201	文化振興諸経費	22,132	312
	2							
	3							
	4							
	5以降							
							合計	312

補助金等	No	R6年度補助金等名称		金額(千円)	
	1	参加費 @500×30×2		30	
	2				
	3				
	4				
	5以降				
				合計	30

事業要員	正規職員	
	会計年度職員	0
	※所要時間	

CHECK評価

法令等により実施することが義務付けられているか。 (1はい・0いいえ) ☐ はい ☒ いいえ				効率性 改善を行い、コストの削減を図っているのか。(2節減できている・1横ばい・0増加している) ☒ 節減できている ☐ 横ばい ☐ 増加している
行政が実施すべき事業か。 (1はい・0いいえ) ☒ はい ☐ いいえ				
住民等のニーズは増えているか。 (2増加する見込み・1横ばい・0減少する見込み) ☒ 増加する見込み ☐ 横ばい ☐ 減少する見込み				
国・県または民間のサービスと競合している事業があるか。 (1ない・0ある) ☒ ない ☐ ある				
事務事業の中で、目的や概要が類似する事務事業があるか。 (1ない・0ある) ☐ ない ☒ ある				
合計 点数	点数区分	次年度方向性の 目安	判定	有効性 財源(補助金等、受益者負担など)を確保しているか。 (1いる・0いない) ☒ いる ☐ いない
13	0点～8点 9点～16点	事務改善または 廃止・休止 維持または 事務改善	維持または事務改善	

今年度	R6方向性⇒	事務改善(業務プロセスの改善)
取組 内容	R6年度は昭和20年代に子どもに自由に絵を描かせる創造美育運動を主導した鯖江出身の美術教師木水育男の活動を知ってもらうワークショップやパネルディスカッションを行う他、さらにその活動を検証するためアウトリーチ活動を行う。	

来年度へ 向けて	R5年度の実績	R5年度は、「シルクスクリーン」、「鯖江の歴史をフカボリ!」、「デザイン」の3つの講座を開催し、芸術、歴史、デザインの学びを深めてもらい、93名の参加があった。
	R5年度実績とR6年度の経過を踏まえた課題	多くの市民に参加してもらうために広報の時期や方法が重要課題となっている。広報はできる限り早く行いし、市民に広く知ってもらえるようSNS等も積極的に活用する。
	実績と課題を踏まえたR7年度の変更点	当初の目的は達成されたため休止。
	R7方向性⇒	終了
	CHECK(次年度方向性の目安)とR7年度方向性が異なる場合には、その理由	

【提案型市民主役事業実施】					
年度	2021	2022	2023	2024	2025
取組選択		不可能	不可能	不可能	不可能
実施状況		未実施	未実施	未実施	未実施

取組可能な事業の詳細⇒

R6年度 事業名	なし
	市民主役事業にかかる額(単位千円): 0
R7年度 事業名	
	市民主役事業にかかる額(単位千円): 0

R6年度事業名	まちなか芸術祭事業
R5年度事業名	まちなか芸術祭事業

総合戦略体系	256	『市民主役』で、さばえる！ひとが集い、挑戦できるまちをつくる	地域資源を活かす観光の推進	ふるさとの歴史・芸術文化の再発見
--------	-----	--------------------------------	---------------	------------------

PLAN計画	部署名	文化課	開始年度	2023	終了年度	2025
	目的	「めがねのまちさばえ」の地域資源である芸術文化、歴史を活かし、シビックプライドの向上を図る。3ヶ年計画で親子対象のイベントを開催し市の文化的魅力を発信する。 ※デジタル田園都市国家構想交付金地方創生推進タイプ ※R5年度は近松生誕370年を記念した事業、R6年度は間部詮勝藩主就任210年・近松没後300年を記念した事業、R7 年度は市制70周年、まなべの館リニューアル15周年を記念した事業展開を行う。				
	概要	R6年度は市の礎を築いた鯖江藩主 間部詮勝の藩主就任210年の節目の年にあたり、詮勝が領民のために自ら拓いたという書陽系 現西山公園を舞台に野外展示やワークショップなどを実施し、誰もが楽しめる芸術祭を開催する。 (参考)R5年度は近松生誕370年の記念の年であり、近松という地域の文化資源を活かし、現代人形劇による近松の代表作「女殺油地獄」の公演をはじめとして文楽から現代人形劇まで幅広く紹介し、多様な角度から近松を顕彰する親子で楽しめる「人形劇フェスタ」を開催した。				
	法令等根拠		実施形態	内容 人形劇の公演を委託		
	現在	民間等委託(一部)				

	活動指標									
	指標名			単位	年度	2021	2022	2023	2024	2025
	開催日数				目標値			2	21	65
					実績値			2	21	
	成果指標									
	指標名			単位	年度	2021	2022	2023	2024	2025
	参加者数			人	目標値			3000	3,000	25,000
					実績値			3184	30,000	
	計算 根拠	事業参加者数			達成率			106.1	1,000	
					実数値					
ランク							A			
前年度 ランク B、Cの 理由										

事業費

区分	2020	2021	2022	2023	2024
予算額				5,097	5,024
決算額				5,097	5,024

【単位：千円】

会計	一般会計
事業タイプ	補助(国)事業
経費区分	物件費

歳出予算

No	款	項	目	事業	R6年度事業名	予算書額	うち事業額(千円)
1	10	5	7	201	文化振興諸経費	22,132	5,000
2							
3							
4							
5以降							
						合計	5,000

補助金等

No	R6年度補助金等名称	金額(千円)
1	デジタル田園都市国家構想交付金	2,500
2	スカイラント @100×500人	50
3	WS参加費 @500×10回×10人	50
4		
5以降		
合計		2,600

事業要員

正規職員	0.5
会計年度職員	0.1
※所要時間	

CHECK 評価

法令等により実施することが義務付けられているか。 (1はい・0いいえ)	☐ はい ☒ いいえ
行政が実施すべき事業か。 (1はい・0いいえ)	☒ はい ☐ いいえ
住民等のニーズは増えているか。 (2増加する見込み・1横ばい・0減少する見込み)	☒ 増加する見込み ☐ 横ばい ☐ 減少する見込み
国・県または民間のサービスと競合している事業があるか。 (1ない・0ある)	☒ ない ☐ ある
事務事業の中で、目的や概要が類似する事務事業があるか。 (1ない・0ある)	☒ ない ☐ ある
合計 点数	13
点数区分	0点～8点 9点～16点
次年度方向性の 目安	事務改善または 廃止・休止 維持または 事務改善
判定	維持または事務改善

効率性

改善を行い、コストの削減を図っているのか。(2節減できている・1横ばい・0増加している)	☐ 節減できている ☒ 横ばい ☐ 増加している
デジタル技術を活用するなど業務効率は向上しているのか。 (2向上している・1横ばい・0低下している)	☒ 向上している ☐ 横ばい ☐ 低下している
業務プロセス(進め方・手続き)の向上を図っているのか。 (2向上している・1横ばい・0低下している)	☒ 向上している ☐ 横ばい ☐ 低下している
市民団体や事業者に業務委託しているか。 (1いる・0いない)	☐ いる ☒ いない
財源(補助金等、受益者負担など)を確保しているか。 (1いる・0いない)	☐ いる ☒ いない
成果は目標を達成できているか。 (2目標を達成できている・1進展している・0目標に向かっていない)	☒ 目標を達成できている ☐ 進展している ☐ 目標に向かっていない

有効性

ACTION

今年度

R6方向性⇒

維持

取組内容

R6年度は鯖江市の礎を築いた鯖江藩主 間部詮勝の藩主就任210年の節目の年であり、詮勝が市民の憩いの場となるように自らが切り拓いた霽陽溪 現西山公園を舞台に野外展示やワークショップ等を実施し、誰もが参加でき楽しめる参加型芸術祭を開催。学校や文化団体など地域と連携を深めて市民力と芸術文化の力を活かし地域力の向上を図る。

来年度へ向けて

R5年度の実績

R5年度は近松生誕370年を記念して高尚なイメージを持つ人形浄瑠璃(文楽)を人形劇という視点で捉え多くの市民に近松をってもらうため「人形劇フェス」を開催し、4,000人の来場者があった。現代人形劇から文楽までを紹介、ワークショップやクラフトマーケット、キッチンカーなど誰もが楽しめる事業を展開し郷土の偉人近松を顕彰した。

R5年度実績とR6年度の経過を踏まえた課題

R5年度は他事業と重なり準備不足な面があったため、スケジュールを調整してスムーズに事業が進行できるように計画しなければならない。
他の事業にも言えることだが、事業の対象となる周知先などを明確にするとともに、SNSから紙ベースまであらゆる周知方法を検討する必要がある。

実績と課題を踏まえたR7年度の変更点

多くの人に事業に参加してもらうために、対象を明確にし、周知方法を検討して情報発信を行う。

R7方向性⇒

維持

CHECK(次年度方向性の目安)とR7年度方向性が異なる場合には、その理由

【提案型市民主役事業実施】

年度	2021	2022	2023	2024	2025
取組選択			不可能	不可能	不可能
実施状況			未実施	未実施	未実施

R6年度事業名

市民主役事業にかかる額(単位千円):

0

R7年度事業名

市民主役事業にかかる額(単位千円):

0

取組可能な事業の詳細⇒

R6年度 事業名	市内遺跡出土品保存処理事業
R5年度 事業名	市内遺跡出土品保存処理事業

総合戦略 体系	256	『市民主役』で、さばえる！ひとが集い、挑戦できるまちをつくる	地域資源を活かす観光の推進	ふるさとの歴史・芸術文化の再発見
------------	-----	--------------------------------	---------------	------------------

P L A N 計 画	部署名	文化課	開始年度	2023	終了年度	2038
	目的	昭和期に調査された市内遺跡から出土した鉄刀、鉄鍬ほか多数の金属製品について保存処理が実施されていないことから崩壊の危機に瀕している。このことから、適切な保存処理を実施し後世に伝える。				
	概要	出土遺物の保存処理（X線撮影、異物除去、脱塩処理、防錆処理等、硬化処理、接合・復元ほか）を実施。				
	法令等 根拠		実施 形態	内 容	専門業者に保存処理業務を委託する。	
	現在	民間等委託（一部）				

D O 実 施	活動指標									
	指標名			単位	年度	2021	2022	2023	2024	2025
	※設定困難				目標値					
					実績値					
	成果指標									
	指標名			単位	年度	2021	2022	2023	2024	2025
	事業進捗率			%	目標値			10	16	19
					実績値			10	17	
	計算 根拠				達成率			100.0	106.2	
					実数値					
					ランク			A		
	前年度 ランク B、Cの 理由									

DO実施

事業費	区分	2020	2021	2022	2023	2024	タイプ	会計	一般会計
	予算額				2,002	2,036		事業タイプ	補助(国)事業
	決算額				2,002	2,001		経費区分	物件費

歳出予算	No	款	項	目	事業	R6年度事業名	予算書額	うち事業額(千円)
	1	10	5	7	501	文化財保存整備事業費(補助)	35,557	2,036
	2							
	3							
	4							
	5以降							
							合計	2,036

補助金等	No	R6年度補助金等名称		金額(千円)	
	1	国宝重要文化財等保存・活用事業費補助金		1,000	
	2				
	3				
	4				
	5以降				
				合計	1,000

事業要員	正規職員	0.02
	会計年度職員	0
	※所要時間	

CHECK評価

法令等により実施することが義務付けられているか。 (1はい・0いいえ)	☐ はい ☒ いいえ
行政が実施すべき事業か。 (1はい・0いいえ)	☒ はい ☐ いいえ
住民等のニーズは増えているか。 (2増加する見込み・1横ばい・0減少する見込み)	☐ 増加する見込み ☒ 横ばい ☐ 減少する見込み
国・県または民間のサービスと競合している事業があるか。 (1ない・0ある)	☒ ない ☐ ある
事務事業の中で、目的や概要が類似する事務事業があるか。 (1ない・0ある)	☒ ない ☐ ある
合計 点数	10
点数区分	0点～8点 9点～16点
次年度方向性の 目安	事務改善または 廃止・休止 維持または 事務改善
判定	維持または事務改善

効率性	改善を行い、コストの削減を図っているのか。(2節減できている・1横ばい・0増加している)	☐ 節減できている ☒ 横ばい ☐ 増加している
	デジタル技術を活用するなど業務効率は向上しているのか。 (2向上している・1横ばい・0低下している)	☐ 向上している ☒ 横ばい ☐ 低下している
	業務プロセス(進め方・手続き)の向上を図っているのか。 (2向上している・1横ばい・0低下している)	☐ 向上している ☒ 横ばい ☐ 低下している
	市民団体や事業者に業務委託しているか。 (1いる・0いない)	☐ いる ☒ いない
有効性	財源(補助金等、受益者負担など)を確保しているか。 (1いる・0いない)	☐ いる ☒ いない
	成果は目標を達成できているか。 (2目標を達成できている・1進展している・0目標に向かっていない)	☒ 目標を達成できている ☐ 進展している ☐ 目標に向かっていない

ACTION

今年度	R6方向性⇒	維持
取組内容	R5と同じく、腐食による崩壊の危険性が高い遺物から優先的に処理を行う。なお、予算については国の補助事業採択額に左右されるため、事業計画が後ろ倒しになる可能性が高い。	

来年度へ向けて	R5年度の実績	保存処理業務を専門業者に委託し、総数28点の鉄製品を適切に処理することが出来た。
	R5年度実績とR6年度の経過を踏まえた課題	国側の都合で国庫補助額が1,000千円/年とほぼ固定されていることから事業額の大幅な増加は見込めず、今後の物価高で委託額も高額となることが予想される。このため、事業額の積み増しが限られ処理点数が鈍化し、事業終了年度も後ろ倒しとなる事が予想される。
	実績と課題を踏まえたR7年度の変更点	R7は遺物の保存処理に加え市内遺跡の出土品整理作業を行う計画であったが、国庫補助の内示額が1,000千円と要望額に届かなかったことから、出土品整理を優先して行う予定。
	R7方向性⇒	維持
	CHECK(次年度方向性の目安)とR7年度方向性が異なる場合には、その理由	

【提案型市民主役事業実施】					
年度	2021	2022	2023	2024	2025
取組選択			不可能	不可能	不可能
実施状況			未実施	未実施	未実施

R6年度事業名		
	市民主役事業にかかる額(単位千円):	0
R7年度事業名	なし	
	市民主役事業にかかる額(単位千円):	0

取組可能な事業の詳細⇒

R6年度 事業名	兜山古墳活用事業
R5年度 事業名	兜山古墳活用事業

総合戦略 体系	256	『市民主役』で、さばえる！ひとが集い、挑戦できるまちをつくる	地域資源を活かす観光の推進	ふるさとの歴史・芸術文化の再発見
------------	-----	--------------------------------	---------------	------------------

PLAN 計画	部署名	文化課	開始年度	2023	終了年度	2025
	目的	R5から供用開始された兜山古墳をはじめとする埋蔵文化財を活用した事業を展開し、内外に古墳公園としてオープンしたことを情報発信するとともに、史跡（埋蔵文化財）を理解してもらうための活用事業をととして文化財保護の理解促進を図る。				
	概要	古墳巡りバスツアーの開催、古墳を舞台としたワークショップの開催				
	法令等 根拠		実施 形態	内容	国指定文化財であることから、市が主体となって事業を推進する。	
	現在	民間等委託（一部）				

	活動指標								
	指標名		単位	年度	2021	2022	2023	2024	2025
	バスツアーの実施回数			目標値			1	1	1
				実績値			1	1	
	成果指標								
	指標名		単位	年度	2021	2022	2023	2024	2025
	バスツアー参加者数			目標値			70	66	70
				実績値			87	68	
	計算 根拠			達成率			124.2	103.0	
				実数値					
				ランク			A		
	前年度 ランク B、Cの 理由								

事業費

区分	2020	2021	2022	2023	2024
予算額				1,392	674
決算額				1,307	586

タイプ

会計	一般会計
事業タイプ	単独事業
経費区分	物件費

DO実施

No	款	項	目	事業	R6年度事業名	予算書額	うち事業額(千円)
1	10	5	7	502	文化財保存整備事業費(単独)	15,846	674
2							
3							
4							
5以降							
						合計	674

No	R6年度補助金等名称	金額(千円)
1	バスツアー参加料	280
2	ワークショップ参加料	24
3		
4		
5以降		
合計		304

事業要員

正規職員	0.125
会計年度職員	0
※所要時間	

CHECK評価

法令等により実施することが義務付けられているか。 (1はい・0いいえ)	☐ はい ☒ いいえ
行政が実施すべき事業か。 (1はい・0いいえ)	☒ はい ☐ いいえ
住民等のニーズは増えているか。 (2増加する見込み・1横ばい・0減少する見込み)	☒ 増加する見込み ☐ 横ばい ☐ 減少する見込み
国・県または民間のサービスと競合している事業があるか。 (1ない・0ある)	☒ ない ☐ ある
事務事業の中で、目的や概要が類似する事務事業があるか。 (1ない・0ある)	☒ ない ☐ ある
合計 点数	11
点数区分	0点～8点 9点～16点
次年度方向性の 目安	事務改善または 廃止・休止 維持または 事務改善
判定	維持または事務改善

効率性

改善を行い、コストの削減を図っているのか。(2節減できている・1横ばい・0増加している)	☐ 節減できている ☒ 横ばい ☐ 増加している
デジタル技術を活用するなど業務効率は向上しているのか。 (2向上している・1横ばい・0低下している)	☐ 向上している ☒ 横ばい ☐ 低下している
業務プロセス(進め方・手続き)の向上を図っているのか。 (2向上している・1横ばい・0低下している)	☐ 向上している ☒ 横ばい ☐ 低下している
市民団体や事業者に業務委託しているか。 (1いる・0いない)	☐ いる ☒ いない
財源(補助金等、受益者負担など)を確保しているか。 (1いる・0いない)	☒ いる ☐ いない
成果は目標を達成できているか。 (2目標を達成できている・1進展している・0目標に向かっていない)	☒ 目標を達成できている ☐ 進展している ☐ 目標に向かっていない

有効性

改善を行い、コストの削減を図っているのか。(2節減できている・1横ばい・0増加している)	☐ 節減できている ☒ 横ばい ☐ 増加している
デジタル技術を活用するなど業務効率は向上しているのか。 (2向上している・1横ばい・0低下している)	☐ 向上している ☒ 横ばい ☐ 低下している
業務プロセス(進め方・手続き)の向上を図っているのか。 (2向上している・1横ばい・0低下している)	☐ 向上している ☒ 横ばい ☐ 低下している
市民団体や事業者に業務委託しているか。 (1いる・0いない)	☐ いる ☒ いない
財源(補助金等、受益者負担など)を確保しているか。 (1いる・0いない)	☒ いる ☐ いない
成果は目標を達成できているか。 (2目標を達成できている・1進展している・0目標に向かっていない)	☒ 目標を達成できている ☐ 進展している ☐ 目標に向かっていない

ACTION

今年度

R6方向性⇒ 事務改善

取組内容

初年度のように予算をかけた大々的な活用事業を展開しないものの、需要の高い古墳をテーマとしたバスツアーの実施、兜山古墳を舞台としたワークショップの開催を予定。

来年度へ向けて

R5年度の実績

令和5年度は、兜山古墳と仁徳陵古墳といった市内と大阪府にある古墳や博物館を見学。200名以上の応募があり、87名の参加を得た。

R5年度実績とR6年度の経過を踏まえた課題

令和5年度は大人気で落選者多数となり、令和6年度も応募者多数のため多くの応募者にお断りをする事態となっている。大変人気の高い事業ではあるものの、大型バス2台での定員が引率上の限界であり、安全管理面からも同様と言える。また、バス借上げ額も高騰しており、令和6年度は大型バス1台と中型バス1台となり、前年度(大型バス2台)に比べて定員が減少しており、ニーズに応えきれっていない。

実績と課題を踏まえたR7年度の変更点

R7年度のバスツアーの参加者募集にあたっては、高校生以下の親子連れの方(家族)や市内の方を優先するなど、何らかの条件を設定することを検討。

R7方向性⇒ 事務改善(手段・サービス水準の見直し)

CHECK(次年度方向性の目安)とR7年度方向性が異なる場合には、その理由

【提案型市民主役事業実施】

年度	2021	2022	2023	2024	2025
取組選択			不可能	不可能	不可能
実施状況			未実施	未実施	未実施

R6年度事業名

市民主役事業にかかる額(単位千円): 0

R7年度事業名

なし

市民主役事業にかかる額(単位千円): 0

取組可能な事業の詳細⇒